ＳＯＳの出し方に関する教育　授業案④（中学生～高校生）

対象学年：中学生～高校生（主に高校生）

ねらい　：つらく苦しい状況に対処するためには、誰かに相談すると気持ちが楽になるなどの

よい効果があることを学ぶことを通して、今後の援助希求態度を育成することができる。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 活動・内容 | 留意点・スライド番号 |
| 導入５分 | １　本時のねらいを確かめる。〇誰かに「相談」したことがある経験を想起する。〇〔スライド３〕から、ＡさんやＢさんはどのような相談をしているかを考える。　　・Ａさん「この英語の問題ですが、どうして過去形にな　　　　　　っているのですか。」　　・Ｂさん「今度の学年レクはどのような活動をしようか。」誰かに「相談」することのよさについて考えよう。 | 〔スライド１～３〕＜留意点＞かしこまった場面での相談だけでなく、気軽に誰かに話をしたことも「相談」であることを共有する。グループや隣同士で自由に話をさせてもよい。　　日常的に様々な相談をしていることに気付かせる。 |
| 展開35分 | ２　相談するときの自分の心理的な状態や思いを見つめる。〇〔スライド４〕を示し、自分自身のことや悩み事を相談するときの気持ちを想像する。〇誰もが不安や心配を感じる可能性があることを共有したのち、【ワーク①】に取り組む。〇グループで交流し、相談することは弱さやだめなことではないことを確かめる。 | ・〔スライド４～８〕＜留意点＞　　交流の約束を守ること。また、言いたくないことは言わなくてもよいことを確認する。 |
| ３　相談することのよさについて考える。　〇具体的な相談場面での不安や心配、また相談した場合どのようなよさがあるか【ワーク②】に書き込む。　＜心配や不安＞　　・あなたの気持ちが弱いだけと怒られるのではないか。　　・いろいろな人に広がってしまうのではないか。　　・サボっているだけと思われるのではないか。　＜よさ＞　　・誰かに聞いてもらえばすっきりするかもしれない。　　・みんなも同じ悩みをもっているかもしれない。　　・乗り越えた子のアドバイスを聞けるかもしれない。　〇【ワーク②】を踏まえ、悩んだとき自分なら誰かに相談するかどうか【ワーク③】に書き込む。　＜する＞　　　・信頼できる友達にちゃんと聞いてもらう。　　・養護教諭の先生なら、聞いてもらえそう。　　・担任の先生に進路についてアドバイスをもらいたい。　＜しない＞　　・好きなことをして、ストレスを発散する。　　・ＳＮＳで同じような悩みをもっている子の意見を調べてみる。 | ・〔スライド９～１５〕＜留意点＞相談することには、気持ちの面での大きなよさがあることを確かめる。　　スライド１２を参照し、グループでの話し合いを行い、メリットについて発表を行ってもよい。＜留意点＞相談しないという選択も肯定的に受け止めつつ、その後どうするかについて考えさせる。 |
| 終末10分 | ４　本時のまとめをする。　〇【ワークシート】に感想をまとめる。 | ・〔スライド１６〕＜留意点＞相談の大切さ伝えつつも強要はしないこと。相談は対処方法の一つであると理解していることが大切。 |